

北神塾 第八講 「経済成長について」②

平成27年1月30日

北神 圭朗

【1】我が国は「景気対策」に異常に依存

1. これらの巨額の景気対策で、経済が持続的によくなったか。
(下支え効果があったとしても、毎年、景気対策をやらないといけない経済は健全といえるのか。)
2. 財政が悪化することの悪影響。
(他の予算に税金を回すことができなくなる。将来の世代へのツケを回す。「日本売り」につながる。)
3. 景気対策によって景気を良くすれば、財政も改善するという「嘘」。
→ 本来は、景気がよくなった時点(例えば、失業率が3%「完全雇用の状態」)で、財政が黒字化するための租税基盤(所得税、法人税、消費税などの水準)がそろっていないければ、国債を償還できない。

【2】経済運営の大方針

1. 「バブル」を起こさないこと。バブル崩壊の後始末ほど大変なことはない。
2. 「将来への投資」(教育、研究開発、職業訓練)を着実に行って、真の経済成長に結びつけること。
→ 経済成長は、①技術革新と②働く世代の質と量によって決まる。
3. 消費意欲を増やすために、将来不安を取り除くこと。
→ 社会保障の「不安」を解消。非正規雇用から正規雇用への転換をしやすいようにする。財政の「不安」(=増税の不安)を取り除く。

4. 「効率」と「分配」の均衡を図る。
→ 「効率」は一極集中。「分配」は広くまんべんなく。
5. 外交上、国全体の国力を強化。
→ 国家の発言権にかかわる。

【3】経済は「経国済民」でなければならない

1. 渋沢栄一の「論語と算盤」。
2. 「国民国家」とは現在生きている国民だけではなく、子々孫々も含む。
3. 景気対策に頼るかどうかは、最後は道義の問題。
(ブキャナンという学者は、「景気対策」は理屈としてはいいけど、議会制民主主義の現実では、財政が黒字になったら、それを使えという圧力が加わるし、議員も票のためにそれに賛同するので、自分は反対するという趣旨の主張)